

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	し尿処理場管理運営費					
担 当 課 係 名	環境保全センター 課		監理 係		作成者	金谷頼輝
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	安心・安全で潤いのある生活環境のまち				総合計画の ページ
	基本計画	廃棄物の適正処理とリサイクル活動の推進				
	主要施策	処理施設の維持管理と機能向上				83・84
予 算 費 目	一般 会計	4 款 衛生費	4 項 清掃費	3 目	環境保全センター費	
事 業 期 間	平成 年度 ~ 平成 年度		新規 / 継続の区分		継続	
性 質 区 分	☒ 市民サービス ☐ 公共事業 ☒ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理					
根 拠 法 令 等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）					
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務					
運 営 方 法	☐ 直 営 ☒ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助					

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	市内全世帯から排出されたし尿及び浄化汚泥
事業の目的・意図 （どういう状態に したいのか）	適切に処理
事業の内容 （どのような業務、 活動を行うのか）	施設の維持管理業務を実施する。

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	受入れ日数	目標	日	270	270	264	
			実績	日	270	270	264	
			達成度	%	100.2%	100.0%	100.0%	
	成果指標	1日の平均受入量	目標	kl	90	90	90	
			実績	kl	87	84	66	
			達成度	%	96.7%	93.3%	73.3%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				65,229	58,925	50,830	
	人 件 費 (B)		—		24,737	14,447	21,556	
	職 員 数		—		3.15	1.79	2.72	
	職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				89,966	73,372	72,386	
	財源内訳	国 庫 支 出 金				0	0	0
		県 支 出 金				0	0	0
		地 方 債				0	0	0
		そ の 他				0	25,571	4,540
		一 般 財 源				89,966	47,801	67,846
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		333,207	271,748	274,189
		市民1人当たりのコスト(円)		—		2,821	2,334	2,332

【事務事業の今までの成果】

廃棄物処理法に基づいて適切に処理されている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	施設全体の機器の耐用年数超過などによる修繕。また、循環型施設の推進。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	特になし

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性		判 定 に 至 っ た 理 由
A	A	現状のまま継続（実施）	旧し尿処理施設老朽化の伴い、新たに汚泥再生処理センターを建設し、し尿、浄化槽汚泥の処理を行う。
	B 1	見直しの上で継続（拡大）	
	B 2	見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3	見直しの上で継続（縮小）	
	C 1	大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2	大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3	大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D	休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E	終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）
新施設完成に伴い旧し尿処理施設は休止。今年度解体予定

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
A	廃棄物の適正な処理は快適な環境を維持するための重要な事業であり、新施設においても設備の計画的な修繕に努め、コストの平準化と施設の長期利用の確保を図りながら事業を継続すべきと考えます。

